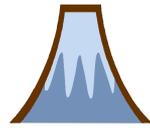


# 万葉図書・情報室だより 37号

江戸絵画と近代日本画



万葉文化館では、一〇月二日より  
一二月二四日まで、今期の特別展 東  
京富士美術館&奈良県立美術館所蔵  
江戸絵画の精華」を開催する。本展覧  
会は、江戸時代の屏風絵、浮世絵に焦  
点を当てたものであるが、こうした江  
戸絵画は現在の日本画の源流でもある。  
万葉文化館は、当代の日本画家の制作  
した「万葉日本画」を所蔵品の核とし  
ているが、まさにこの特別展は、その  
源流を探るものであるとも言える。  
とは言うものの、実のところ、江戸  
時代の絵画と現代の日本画の間にはあ  
る種の断絶が存在している。現代の日  
本画は、江戸時代以前の伝統絵画の流  
れを汲んではいるのだが、本質的に別  
物のような部分もある。以下では、こ  
うした現代の日本画と江戸絵画の關係  
について、簡単に解説しておこう。  
そもそも、一つの前提として、江戸時  
代の絵画は、階級や地域によって受容層  
が分かれていたということは重要だろう。

江戸絵画の精華」では、狩野派や琳派、  
土佐派、浮世絵など、江戸時代の様々な  
画派を紹介しているが、基本的にはこれ  
らのうち、狩野派は武家層、琳派は京都  
の富裕商人、土佐派は公家、浮世絵は江  
戸の庶民に主に受容されていた。もちろ  
ん、これらは主な受容層であり、いくら  
かは流動的なものではあったのだが、基  
本的には「日本画」という一括りの概念  
は存在しなかつたと言つて良い。

しかし、この状況は、明治維新とも  
に一変する。明治維新は日本という国を  
近代国家」とするためのものであり、  
士族や華族などの身分はあつたものの、  
曲がりなりにも四民平等がとえられ、  
天皇を中心とした一つの国民による統  
一国家が目指されていた。こうした中で、  
階級によって受容層の分かれていた伝統  
画派を統合し、西洋画の遠近法や色彩表  
現なども一部取り入れながら、統一さ  
れた国民のための美術」を目指して形成  
された絵画が、現在の日本画の始まりと  
言えるのである。

つまり、ある意味では「日本画」とい  
うものは、明治以降に「作られた伝統」

という面もあり、それが先に述べた「あ  
る種の断絶」なのである。ただし、それ  
は何もないところから伝統を捏造したと  
いうものではなく、むしろ江戸時代に存  
在していた伝統的画派を近代国家のイ  
デオロギーに適應する形で、新しく作り  
直したという表現が適切かもしれない。

実際、近代に成立した当初の「日本  
画」は、江戸絵画とのつながりを多く残  
している。近代日本画を理論面から支援  
したのは、アーネスト・F・フェノロサ  
(一八五三―一九〇八)のだが、そ  
のフェノロサと協力し、実践面で近代  
日本画の先駆者となつた狩野芳崖(一  
八二八―一八八八)は、幕末に木挽町  
狩野家で学んだ生粋の狩野派絵師であ  
る。また、明治二十二年(一八八九)  
に開校した東京美術学校(現、東京藝  
術大学)には、狩野派や円山派の流れ  
を汲む画家が教員として雇われ、生徒  
はこの教員に師事する形で絵画を学ん  
でいった。さらに、横山大観(一八六  
八―一九五八)や菱田春草(一八七四  
―一九一〇)らは、明治後期から大正  
期にかけて尾形光琳(一六五八―一七  
一六)をはじめとした琳派の表現を研  
究し、自身の表現を広げているのであ  
る。

江戸絵画の精華」の展示作品の中

に、直接的に現在の日本画と同一のも  
のを探すことは困難かもしれない。そ  
れでも、近代日本画の形成期に江戸絵  
画の存在が大きな役割を果たしたこと  
は事実である。当館の万葉日本画を見  
るときには、江戸絵画の遠い面影を感  
じていただければ幸いである。

万葉文化館学芸員・安永幸史)

## お知らせ

今年度、文化勲章を受章された中  
西進・当館名誉館長の図書展示をし  
ています。名誉館長が、思い出の著  
作として挙げられたエッセー集『雪  
の匂い』や、中西進著作集全三六卷  
等、多数展示しています。

## 利用案内

開館時間 午前10時～午後5時半  
休館日 月曜日(祝日の場合は翌  
日)・年末年始・展示替日

図書室のご利用は無料です。  
閲覧でのご利用になります。

コピーサービス 白 黒 一枚 10円  
カラー一枚 50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室  
奈良県高市郡明日香村飛鳥一〇  
0744-5411850(代)